



2011年3月 第9巻 第3号

### かく語りき—聖人の言葉

「息子よ、決して危険に遭わないなどということはありません。困難は常にやって来ますが、永遠には続きません。橋の下を水が流れるように、困難は過ぎ去ります。」

(ホーリー・マザー  
シュリー・サーラダー・デーヴィー)

「世界の幸福のために仕えるよう常に努力せよ。無私の働きに献身することで、人は人生の至高の目的を達成するのだ。他者の幸福を常に心に留めながら、自分の仕事をせよ。」

(シュリー・クリシュナ、  
『バガヴァッド・ギーター』より)

### 今月の目次

- ・ かく語りき—聖人の言葉
- ・ 今月の予定
- ・ 2011年2月の逗子例会 スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会 「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ

の教えの力」

スワーミー・メダサーナンダによる講話

・ スワーミー・メダサーナンダ、タゴール生誕 150 年記念講話会でスピーチ

「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ、タゴールと日本のつながり」

- ・ 江ノ島 龍口寺参拝
- ・ 忘れられない物語
- ・ 今月の思想

### 今月の予定

・ 生誕日 ・

シュリー・ラーマクリシュナ

3月6日(日)

シュリー・クリシュナ・チャイタニヤ

3月19日(土)

スワーミー・ヨガーナンダ

3月23日(水)

・ 行事 ・

東京・インド大使館例会 4月2日(土) 14:00 - 16:00

テーマ：バガヴァッド・ギーター (無

料)

場所：インド大使館 : 03-3262-2391  
協会発行の『シュリーマッド・バガヴァッド・ギーター』をお持ちの方はご持参下さい。

春のヨガ・リトリート 2011 バガヴァッド・ギーターを学ぶ

4月9日(土) - 10(日) 1泊2日

場所：大分県湯布院 聖マリア修道院  
参加費：¥15,000 (宿泊費、食費他全て含む)

お申し込み&お問い合わせ：じねん  
0972-62-2338 神力 0977-25-4464

4月の逗子例会 4月17日(日) 10:30 - 16:30

場所：逗子本館

講話：シ rilル・ヴァリアット氏 (上智大学教授)

テーマ：「キリスト教における霊的実践」

アカンダ・ジャパム 4月29日(日)  
6:00 - 20:00

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ公開生誕祝賀会

5月22日(日) 14:00~16:00 予定

場所：インド大使館ホール

内容：歓迎の挨拶、誘導瞑想、スピーチ、東北大震災の犠牲者のための祈り

## 2011年2月の逗子例会

### スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会

「スワミー・ヴィヴェーカーナンダの教えの力」



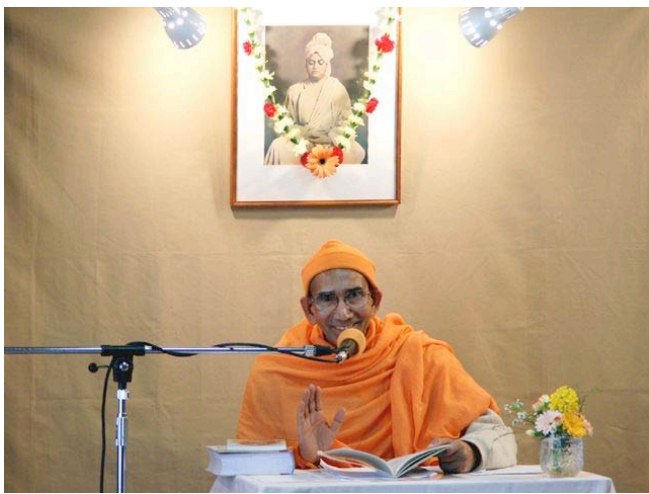
スワミー・メダサーナンダによる講話

今日の講話のテーマは「スワミー・ヴィヴェーカーナンダの教えの力」です。これは、「スワミー・ヴィヴェーカーナンダの教えがどのように私たちに力を与えるか」ということであり、私たちの人生に関わりのある大切なことだと考えています。



## 言葉と教えの違い

「言葉 (words)」と「教え (message)」の違いは何でしょうか。私たちは多くの言葉を話します。多くの学者がいろいろな本を書き、人を啓発するスピーチをする人も数多くいます。しかし、これらは単なる言葉であり教えではありません。では、教えとは何なののでしょうか。



教えとは悟りの結果であり、教えを説く人の人生に沿っていて完全に調和したものでなければなりません。また、教えには、時を超越した普遍の価値、他者への影響力、吸収しようとする人を変える力が備わっている必要があります。これらは、教えが説かれた時だけでなく、その後も何十年と変わることなく教えが持ち続けなければならないものです。これが、真の教えの特質です。

だから、クリシュナやブッダ、ムハンマド、イエス、ラーマクリシュナ、ヴィヴェーカーナンダらの教えについて話をする意味があるのです。彼らの

教えは彼ら自身の悟りに根ざしたものであり、彼らが送った人生と矛盾がありません。普遍の価値、永遠の価値を持ち、人びとを変えてしまうほど大きな影響を与えるものです。教えが説かれた時と場所だけで通じるのではなく、いかなる時代、いかなる場所でも通用します。クリシュナ、イエス、ブッダなどははるか昔の時代の人ですが、彼らの教えは歴史や社会の移り変わりに関係なく数え切れない人びとに影響を与え続けており、人びとは彼らの教えからインスピレーションを得ているのです。

## 教えを理解する

優れた学者や講演者が知性に満ちたテーマのもとに行う深遠なスピーチに、興味を持って耳を傾けたものの、しばらくしたらスピーチの内容を忘れてしまうということがあります。これは、語られた言葉が深い悟りから生まれたものでないからです。ロマン・ロランは、フランスの有名な学者、作家、思想家、人道主義者であり音楽に造詣も深いのですが、日本にシュリー・ラーマクリシュナとスワミー・ヴィヴェーカーナンダの教えを初めて伝えたのは彼でした。1930年にロランの執筆したシュリー・ラーマクリシュナとスワミー・ヴィヴェーカーナンダの伝記が日本語に翻訳されたのです。スワミー・ヴィヴェーカーナンダの伝記の

中でロランは、「彼の言葉は偉大な音楽であり、そのフレーズはベートーヴェンのスタイル、心をかき立てるそのリズムはヘンデルの合唱曲のようだ。彼の言葉に触れると、体に電流が走ったかのような興奮を覚えずにはられない」と書いています。これは、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの没後三十年してロランが記したものです。

ロマン・ロランは英語を話せなかったため、スワミー・ヴィヴェーカーナンダが英語で語った言葉を、ロランの妹が彼のためにフランス語に翻訳しました。この翻訳を読んでロランは「衝撃」を受け、その衝撃に突き動かされて力強く美しい伝記を執筆したのです。もしロランがヴィヴェーカーナンダの言葉を原語である英語で理解することができたら、彼の著作はいったいどのようなものになっていたのでしょうか！ロランはこのように述べています。「この英雄の口から燃えるような言葉が発せられたとき、どれほどの衝撃が生まれたことだろうか！」

スワミーの教えからインスピレーションを与えられたのは、インドの人びとだけではなく西洋にも数多くいました。その中には、偉大な哲学者や作家、科学者、社会的指導者、愛国主義者、人道主義者などさまざまな人がおり、もちろん信者や普通の人びともいました。『Western Admirers of Ramakrishna, Vivekananda, Holy Mother and other Disciples』という

本に、西洋の人びとがシュリー・ラーマクリシュナやスワミー・ヴィヴェーカーナンダらに影響を受けた様子が記されています。この本は、Hollywood Vedanta Society の Gopal Stavig 氏が多くの調査に基づいて執筆したものであり、スワミー・ヴィヴェーカーナンダに多くのページが割かれています。



## 霊性を鼓舞する不朽の教え

スワミー・ヴィヴェーカーナンダが著書やスピーチの中で説いた教えは、世界中に広まっており、特に重要な本が二冊あります。一冊は、ヴィヴェーカーナンダの手紙をまとめたもので、人びとに個人レベルで直接語りかけているものであり、インスピレーションを与える素晴らしい言葉が記されています。もう一冊は、ある弟子がスワミーとの会話を記録したものです。この二冊はインスピレーションに富んだ素晴らしい本で、インドでは作家、科学者、宗教指導者、政治指導者、社会改革者など多くの偉人らが影響を受けています。

実際に、19世紀末～20世紀初めのイ

ンドにおいて、高い地位にある指導者でスワミー・ヴィヴェーカーナンダの影響を受けなかったという人はほとんどいないと言えます。彼の教えに鼓舞されて、多くの若者がインドをイギリスの支配から解放するために自らの生涯を捧げました。今日でも、若者を中心とする何百万もの人びとが彼にインスピレーションを受け、人類に奉仕するため、あるいは神のために生涯を捧げています。

『The Times of India』は、多くの発行部数を誇るインドの有名な新聞ですが、今年の1月8日に『ナレン、誕生日おめでとう』というタイトルでスワミー・ヴィヴェーカーナンダに関する記事を掲載しました。（ヴィヴェーカーナンダの俗名はナレンドラナートでした。）記事の著者は六十代で、ヴィヴェーカーナンダの教えを数多く引用し、それらの教えに若い頃からどれほど影響を受けてきたか、失敗や危機に直面した時どれほど支えられたか、また自らのビジョンや人生の目的に教えがどれほど役立ったかを述べていました。

『Talks with Swami Vivekananda』という本は、先ほどお話しした、弟子とヴィヴェーカーナンダとの会話をまとめた本ですが、この本の中で弟子はこう言っています。「スワミージ、あなたから言われると、私に不可能なことなどないと思えます。」ヴィヴェーカーナンダの弟子らは、ヴィヴェーカー

ナンダに「君は偉大だ！」と言われると自分は本当に偉大だという気持ちが大きくわき上がるのを感じたと回想しています。これが、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの教えの力なのです。私自身も、人生の岐路に立たされたとき、ヴィヴェーカーナンダの教えは支えとなり、教えから大きなインスピレーションを受けました。ですから、私のお話ししていることは、私が信じていることではなく実際に経験したことなのです。

## ヴィヴェーカーナンダの教えの特徴

スワミー・ヴィヴェーカーナンダの教えには四つの特徴があります。それは、力強いこと、前向きであること、深いこと、そして霊的であることです。現代人は概して、もろく神経質です。小さな失敗をしたり少しの問題が生じたりしただけで、我慢が出来なくなります。人生は常にバラ色なわけではなく、成功するとは限らないし願いがかなうとも限らない、ということを私たちは理解していません。成長と共に、人生にだんだんと期待していくようになります。

親も学校も社会の指導者も、人生には失敗や問題、落胆がつきもので、進んでいくのは大変だから覚悟が必要だということを教えてくれません。結果的に私たちは否定的になり、人や物事の悪い面ばかりを見るようになります。

表面的なことに気をとられ深く考えることをしなくなり、世俗的な傾向が強くなります。日本について言えば、今日この国が抱える社会的問題、精神的問題は、1868年の明治維新が原因でしょう。近代化により多くのメリットを享受しましたが、一方では西洋文明を盲目的に模倣するなどのデメリットもありました。そのため、武士道を始めとする素晴らしい伝統を日本は失うことになりました。

国家の近代化の過程で、神道が重視され仏教は故意に弱体化されました。仏教の精神的伝統の衰退と共に、日本社会は著しく世俗化し、よりどころを失ったのです。第二次世界大戦後、日本は荒廃から徐々に復興し一大経済国家へ成長しましたが、同時に、アメリカ文化の安っぽい面ばかりがこの国に根ざしてしまいました。だから、多くの霊的伝統が失われ世俗性がはびこったのです。



スワミー・ヴィヴェーカーナンダの教えとその力強さ、前向きさ、深さ、霊性は、現代の日本人にどのように役

立つのでしょうか。まず、人生の目的や目的を達成する方法について考えて見ましょう。今日最も大きな問題の一つは、方向を見失っていることです。人生の目的、ゴールとは何か。ヴィヴェーカーナンダは、人生の目的とは自己の内にある神性を表すことであるとはっきり言っています。それにはどうすればいいのか。自分の内的な性質と外的な性質をコントロールするのです。そうすることで、永遠の平安、喜び、叡智、自由を得ることができます。

次の問題は、ゴールは分かっているもそこに到達しようという強固な意志がないことです。ヴィヴェーカーナンダは、さまざまな方法で私たちのやる気を引き出そうとしています。彼の有名な言葉があります。「立ち上がれ、目覚めよ。ゴールに到達するまで立ち止まるな。」

## 弱さと向き合う

さらに、今の私たちの心が弱く神経質であることも問題として挙げられます。自分の弱さをくよくよと考えていると、ますます心は弱まり、悪循環が生まれます。サルは小さな傷を負うと、気にして傷をいじるため傷口に炎症が起こり遂には死に至ることがあります。問題や失敗、過ちをいつまでも考えていても、状況は悪化するだけです。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダのアドバイスは、こうでした。「友よ、

なぜ泣いているのか。君の中には無限の強さと力があるではないか。それを現したまえ。」そして、こう言いました。

「強さは生（せい）であり、弱さは死だ。」さらに続けます。「弱さを克服するには、弱いことをいつまでも考えるのではなく、強さを考えることだ。」実践的な素晴らしいメッセージです。そしてこう言います。「自分を信じること、神を信じること。これが偉大さの秘訣である。」

私たちは自分の失敗や間違い、すなわち「罪」を大変心配し、そこから生まれる悪いカルマを恐れています。そのため、こうなるのは運命だから仕方がないとあきらめたり悲観的になったりします。スワージーは言いました。「君たちは神の子供だ、罪人などではない。君たちは、完全で神聖で純粋なのだ。人を罪人と呼ぶことが罪なのだ。」

人は皆、仕事や家族など自分を取り巻く環境でさまざまな問題にぶつかります。しかし、問題と向き合って解決しようと思わず、ただ逃げようとするものが多いためです。このような現実逃避は非常に危険で、いったんは逃げ出しても後から問題が何千倍にも大きくなって戻ってくるのです。

これに関する事で、スワージー・ヴィヴェーカーナンダが実際に経験した、非常に有名な出来事があります。シュリー・ラーマクリシュナの没後、スワージーは遍歴僧となりあちこち

を放浪しました。ベナレスにいたとき、ドゥルガー女神を祀るある寺院の中や周囲にたくさんのサルがいました。ハヌマーンを祀る寺院も近くにありましたが、そこにはもっとサルがいました。あるときヴィヴェーカーナンダがそのあたりを通りかかると、何匹かのサルが彼を追いかけ始めました。そのような状況であれば誰でもそうするでしょうが、ヴィヴェーカーナンダは大変怖くなって走り出しました。すると、それを見ていた一人の高齢の僧が、「走らないでサルに立ち向かいなさい」とスワージーに大声で叫びました。スワージーはこのアドバイスを聞いて我に返ると、振り返り、追いかけてくるサルたちに怒りを露わにした姿勢で立ち向かいました。これに驚いたサルたちは、慌てて逃げていきました。

スワージー・ヴィヴェーカーナンダは、後で何度もこの出来事に触れ、信者らに「獣に立ち向かえ」、すなわち問題から逃げることなく向き合うよう勧めました。また、失敗したり過ちを犯したりするのは当然のことだから決して気にしてはいけないとも言いました。

「千回やって失敗したら、もう一回やればいい。」非常に前向きで楽観的です。つぎの一回で成功するかもしれないのです。「牛は決して過ちを犯さないが、牛のまま。人間は過ちを犯すが、完全になることができる。」成功するには、強大な意志の力、粘り強さ、忍耐力が必要なのです。

また、私たちはあまりに自己中心的であるのも問題です。そこに不幸の根源があるのです。「私の体」「私の気持ち」「私の家族」「私の仕事」と、全世界が「私」に限定され低められています。スワージーは、平安と幸福を最も確実に得る方法は他者のことを考えることだ、とアドバイスしました。他の人のことを考えれば考えるほど自分のことを考えなくなります。しかし、現代社会の風潮では、自分のことをますます考えるようになっていきます。そのため執着心や束縛が強くなり、緊張と不安でいらいらし、幸せから遠ざかっていきます。しかし、他者を思いやり、他者の幸福や福祉を考える人は平安と喜びを得、周囲にも平安と喜びを与えて調和を生みます。スワージーがこれを簡潔に素晴らしい言葉で表現しています。「私心のないことは神である。」

問題が起きると、カウンセリングを頻繁に受けることがあります。問題が起きる前に受けたらどうでしょうか。また、健康で精神的な強さがあれば、カウンセリングの必要はないでしょう。健康を保つのに普段からサプリメントを摂取するとよいと多くの方が考えますが、同じように、私が今から提案することを普段から実践すれば、カウンセラーや精神科医、スピリチュアル・ヒーラーにかかる必要はなくなるでしょう。心の健康だけでなく、仕事や人間関係にも役立つでしょう。それは、

スワージー・ヴィヴェーカーナンダの四つの教えを霊的サプリメントとして取り入れ、時々思い出して繰り返し唱え、深く考えてみてください。一つ目です。「私は純粹です、純粹です、純粹です。私は神聖です、神聖です、神聖です。私は、この神の性質を現さねばならない。」二つ目です。「強さは生（せい）であり、弱さは死だ。弱さを克服するには、弱いことをいつまでも考えるのではなく、強さを考えることだ。」三つ目です。「私は頑張って努力し、闘う。失敗や過ちなど気にしない。ゴールに達するまで闘う。」そして最後の一つです。「私心のないことは神である。平安を得る最良の方法は、自分のことではなく他者のことを考えることだ。」

## 「タゴール、寛方と三溪のつながり」 タゴール生誕 150 年記念講話会

主催：原三溪市民研究会 協賛：  
横浜美術館

会場：横浜美術館 円形フォーラム  
日時：2012年2月12日（土） 14:00 - 16:00

### 大場多美子氏による講話会の報告

原三溪市民研究会は、2010年横浜開港150年『三溪翁』伝の出版とともに、三溪翁の生き方や哲学を学び、自分たちの生き方を問いかけるとともに、若い人たちに伝えていくことを目的とし



て発足された研究会です。



そして今年、タゴール詩聖生誕 150 年であり、記念年として タゴールと新井寛方とそして岡倉天心とのつながりについて学ぶ講話会の開催となりました。

講話会は、第二部は、荒井寛方のお孫さん 河合力様にお話しいただきました。岡倉天心のやしゃごの岡倉登志先生もご参加くださるという大変記念すべきものになりました。タゴールや天心、スワミー・ヴィヴェーカーナンダも喜んでくださっているような気が致します。

スワミー・メダサーナンダは、とてもわかりやすい日本語で、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの日本とのつながり、そしてタゴールと天心とのつながりなどを、私たちに伝えてくださいました。スワミー・ヴィヴェーカーナンダと日本のつながりは はじめて聞くことであり、とても驚きました。そしてさらに心に深く刻まれたお話しは、“タゴール生誕 150 年年として何が大切であるか” です。それは

Who are you?

Who am I?

自分は何のためのために生きたか？

何のために生きるか？

を問いかけ 内観をする機会にするというお話しです。

21 世紀は、タゴールも目指した世界市民としてのつながりが求められていると思います。ベンガル語でのタゴールの詩を朗読してくださいましたことも タゴールとベンガルの心に触れることができました。

講話会に参加された方々は、きっとそれぞれの心に問いかけていると思われる。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ様に心より感謝するとともに、これからも教えていただきたく思います。

感謝

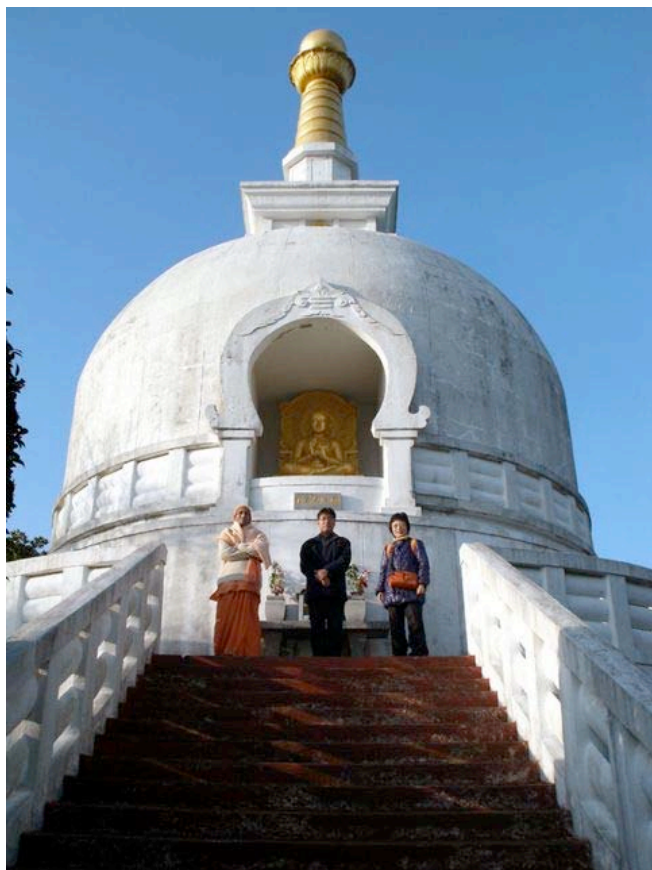
シャンティ

江ノ島 龍口寺参拝

日蓮宗僧侶 鈴木法拳師

2 月 25 日の炊き出しは、協会からスワミー・洋子さん、三田村さん、私の 4 人と現地で 1 人の男性 (ヨガの先生と米軍基地の調理の仕事をされている方) が加わり、400 本のバナナの配布を行いました。当日のメニューはいつもの雑炊でしたが、武蔵野大学社会福祉学部の学生と教授達もボランティアに来ていて、マハーラージも歓談されてい

ました。



春を通り越して日差しが暑いくらいの陽気でしたので、皆さん活気づいていました。協会の炊き出しは今回で丸一年を迎えたそうで、初回は厳寒の炊き出しだったそうですから、今回の天候は祝福とも受け取れました。

炊き出しを終わり、皆で昼食中、「法拳さんの龍口寺にお参りしても良いですか？」というマハーラージの提案で急遽、龍口寺のある江ノ島行きが決まりました。マハーラージも以前からお参りしたいとおっしゃっていましたし、洋子さんも昔仕事で江ノ島近辺はよく来た懐かしい場所ということ、三田村さんも道路事情に詳しいこともあって、とんとん拍子にお寺に着きました。

境内を少し散策した後、山頂にある仏舎利塔（インドでは「シャンティ・ス

トゥパ 平安の建物」というそうです）を参拝、ここで記念写真を撮りました。この仏舎利塔を建てた日本山妙法寺という団体はインドでも多数の仏舎利塔を建立しているのでマハーラージもよくご存じであり、中央に鎮座されるお釈迦様に祈りを捧げられていました。

その次は、県内唯一の木造本式五重塔を参拝し、最後に本堂へ入り、マハーラージはひととき神聖な祈りを捧げて下さいました。「この本堂内は、とてもいい空気が流れている」といったような事をマハーラージはおっしゃり、場の雰囲気を楽しんでいる様子でした。洋子さんも、目を閉じるといつまでもここに座っていたいような気分になったと、後でおっしゃっていました。

本堂脇にはカーリー女神も祀られているのでご案内しました。日蓮宗の経典「法華経」の中に、仏法守護の神様としてカーリー（鬼子母神と呼びます）が勧請されている故です。

この龍口寺周辺は鎌倉時代の処刑場であり、日蓮聖人もこの場所で、斬首の刑に処せられるところを奇跡的に中止となったというような因縁深い地です。私見ですが、マハーラージが本堂で静かに祈りを捧げている間、この場が浄化されていくような感覚をもちました。

穏やかな夕陽に照らされながら、境内の建造物や水仙などをご覧になられた後、最後に龍口寺から、おさがりとインセンスの贈り物をさしあげ、お帰

りになられました。

皆さん、龍口寺参拝を喜んで下さり、私自身も気持ちが洗われるようなステキな一日でした。

## 忘れられない物語

### 魚と網のたとえ

シュリー・ラーマクリシュナ：「この世は漁網のようなものだ。人間は魚、マヤーでこの世界をおつくりになった神は漁夫だ。魚が網に捕らえられると、そのなかのあるものは、自由になるために網の目を破ろうとする。それらは、解脱を求めて努力する人びとのようなものだ。しかし決して、それらの全部が逃れられるわけではない。ほんの数尾が、ザブンと音をたてて網の外にとび出し、人びとは、『あっ！大きな奴が逃げだ！』と言うのだ。このような調子で三人か四人は解脱をとげる。また、ある魚は生まれつきたいそう用心深く、決して網には捕らえられない。ナーラダのような、永遠に完全なクラスに属する人びとは、世間という網の目には決して捕らえられることはない。大部分の魚は網にかかる。しかし彼らは網にも、そして自分たちのさし迫った死にも気づかない。かかるやいなや、網もろともまっさかさまに泥の中に突っ込み、身を隠そうとする。彼らはいささかも、自由を求める努力はしない。あべこべに、だんだん深く泥の中に入っていく。このような魚は束縛された

人に似ている。彼らはまだ網の中にいるのだが、自分たちはそこでまったく安全だ、と思っている。縛られた生きものは墮落という泥沼に入り込んでしまい、俗世間に、つまり『女と金』に浸りきっているのだ。それでもなお、自分はまったく幸せで安全だと思っている。解脱した人びとや解脱を求めつつある人びとは、この世界を深い井戸のように見る。彼らはそれを楽しまない。それだから知識つまり神のさとりを得ると、ある人びとは肉体をすてるのだ。しかしこのようなことはじつにまれだ。」

(『シュリー・ラーマクリシュナの福音』より)

## 今月の思想

「世界をよくしようと思ったら、少しも待たずにそうし始めていいなんて、本当に素晴らしいわ。」

(アンネ・フランク)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)